

## 第9回全国銃剣道指導者研修会



第9回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月11日～13日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）にて参加者26名が集まり実施された。

本研修会は、全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「銃剣道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実に努め、もって全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われた。

### ■1日目（11月11日）

はじめに開講式を行い、いちのやすみ市野保己（公社）全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立ち、「全国から中学校の銃剣道授業に携わる様々な方々に集まっていたので、本研修会の場を最大限活用し、銃剣道授業の、さらなる実施、向上に向け、様々な意見交換をすることで今後の指導に生かしてほしい」と参加者に呼びかけた。

次に、なかしまあきひろ中島昭博 日本武道館普及課長が、



市野保己  
副会長兼専務理事

「本研修会で多くのことを学び、指導力向上を図っていただき、一人でも多くの中学生に銃剣道の楽しさや素晴らしさを伝えてほしい」と述べた。

開講式終了後、中学校武道必修化指導書DVDの武道編を視聴。その後、やまなかようすけ山中洋介特別講師が「私が武道（剣道）をとおして学んできたこと」と題して講演を行った。戦後から現在に至るまでの学習指導要領の変遷にみられる体育授業における武道の位置づけを、解説した後、どのように自らが武道と



山中洋介  
特別講師

関わってきたのか、自身の選手・指導者としての経験を交えて経歴を述べた。山中講師は、「始めは強くなりたいという思いから『武道（剣道）を学ぶ』という姿勢でいた。しかし、現在は武道（剣道）を学ん

だ意義は『武道（剣道）で学んだことを人生に活かしていくこと』であると気づき、武道で学んできたことが今の自分を支えている核となっている。考え方が『武道を学ぶ』から『武道で学ぶ』に変わった」と述べた。

続けて、「学校授業における銃剣道体験授業指導法導入編」がせおのりつぐ瀬尾憲次講師の指導のもとに行われた。講義では木銃の部位の名称や取り扱い方、用具の説明、立ち方や座

礼などの礼法、足さばきや突き方などの基本動作の説明や実技を実践した。その後、未経験者の参加者間で経験者の審判のもと、判定試合のトーナメント戦を行った。瀬尾講師は注意点として「肩や肘、膝に力を入れず、ゆったりと構えるということを意識する」と参加者に呼びかけた。

## ■2日目 (11月12日)

2日目の始めは1日目の復習として基本動作を行い、有段の受講生による模範演武の見学をした。その後、実際に用具装着者に対して基本技である直突を実践した。瀬尾講師は、「突こうとする気持ちが強すぎてしまうと、剣先が上がり、姿勢が崩れてしまうので、右足の引付けや背筋を正しくする意識を持つことが重要である」と説いた。

続けて、滝沢<sup>たきざわげんき</sup>元気講師によって「学校授業における銃剣道体験授業指導法展開編」として、生徒への具体的な指導方法や評価のポイントが説明された。講義では、『気剣体の一致』の『気』の意義に加え、コロナ禍で特に十分な発声ができない中、気力を表現する発声の重要性を生徒に納得してもらうためには、どのような指導をすればよいか」と参加者に問いかける場面もあった。また、目標を正確に突く動作をゲーム感覚で学べる、新聞紙やボールを使った指導方法の紹介もあった。



休憩をはさみ「学校授業における銃剣道指導法学校授業用形編」では、石川<sup>いしかわしんや</sup>慎也講師、田村<sup>たむらせいいち</sup>聖一講師が銃剣道の形（1本目・2本目・5本目・6本目）を滝沢講師解説のもと、披露した。滝沢講師は通常の形と授業式の形には違いがあるということを元立ち・仕方の動作や号令のかけ方を比較して

解説を行った。また、「専門的な用語である『残心』の意味は中学生には難しく、説明しづらい。分かりやすく伝えるには、言葉の意味を教えるだけでなく、何かに例えて話をしたり、先生自身の経験を交えて説明したりしても良いのではないかと。目に見えないものを指導するためには言葉の選択を意識することが重要となる」と、指導のヒントを参加者に伝えた。



この日は締めくくりとして「今年度授業実施予定校の採用実現までの経緯や取り組み報告」と「体験授業の継続的な実施について」の2つをテーマに、衛藤<sup>ゑとうけいすけ</sup>敬輔助講師司会のもと情報交換会が行われた。

## ■3日目 (11月13日)

3日目の講義では、市野講師より「全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組」と題して、昨年度の武道授業の実施状況や詳細な中学校銃剣道授業に関する事業計画について説明があった。市野講師は、「銃剣道の指導においては専門性が高く、外部指導者の存在は大変重要である。そのため、教員研修を進めるとともに外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について引き続き検討していく」と述べた。また、講義後には岩沼市教育委員会からの参加者から、中学校部活動の地域移行について、「岩沼モデル」を用いた説明・紹介があった。

閉講式では、中島普及課長により修了証の授与、瀬尾講師より講評を、最後に市野講師が主催者挨拶を行い、研修会のすべてを終了した。